

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 17日

東京大学での所属学部・研究科等:	農学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	IARUサステナブルキャンパス交換学生	派遣先大学:	ケンブリッジ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ロンドンから電車で約1時間30分ほどのところにあるケンブリッジ大学に派遣された。ケンブリッジ大学のEnvironment and Energy Sectionという部署で大学内のSustainable Procurementについてのインターンシップを行った。

環境問題やサステナビリティに関わる活動に興味があったから。特に、TSCP委員会の一員として東京大学内のサステナビリティを向上させる活動にも関わっているため、大学におけるサステナブル活動に興味があった。派遣先がヨーロッパであったことも大きな動機の一つであり、環境問題に対する活動が特に活発なヨーロッパにおいて、人々がどのような意識でどのような活動をしているのかを知りたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

交換学生として採択されたという知らせからプログラム開始まであまり時間がなかったため、すぐに準備し始めたほうが良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

イギリスのビザ申請はとても分かりにくい上に時間がかかる。ウェブサイト上で必要事項を記入したのち、申請所へ行って申請する必要がある。私は、出発2週間前にビザ申請を行った。通常であれば申請から取得するまで2週間〜1か月ほどかかるようだが、追加でお金を払い、「優先ビザサービス」を利用して優先的に手続きしてもらったため、出発5日前に取得することができ、間に合った。時間がかかるだけでなく、申請手順もかなり複雑で手間がかかるので、早めに準備する必要がある。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

海外渡航届を農学部に提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

正直英語はあまり得意ではなかった。海外旅行は何度かしているが、今回はインターンシップということで、英語を使う場面がかなり多く積極的にコミュニケーションを取らなければならないことに不安も覚えていた。出発前がちょうどテスト期間だったこともあり、十分に勉強できたわけではないが、単語とリスニングを少し勉強した。また、東大のIARU GSP歓迎会に参加し、留学生と話すなどもした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

イギリスは想像以上に涼しく、腹を壊したこともあったので、羽織れる衣類は必須だと思う。天候がとても変わりやすいので、うまく調節できるように衣類を持っていく必要がある。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Environment and Energy Section でケンブリッジ大学のSustainable Procurement Guidelineを改訂する業務をした。まず、他大学や現在のケンブリッジ大学のガイドラインを比較した。次に、それを踏まえて改善点を洗い出し、調べ物をしながら改訂作業をした。最後に、Sustainable Procurementを普及させるための方法なども考えた。

②学習・研究面でのアドバイス

あくまで派遣先は職場なので、周りの職員は自分の仕事に追われている。インターン生も自分以外2人しかいなかった。自分から積極的にコミュニケーションをとらないと何も得られない。

③語学面での苦勞・アドバイス等

話すスピードが速く、ついていくのが大変だった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ケンブリッジ大学が用意したFitzwilliam Collegeに宿泊した。大学は長期休み期間であるため、学生はサマープログラムで来ている人しかいなかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候: 全体的には涼しく、湿度も高くないため過ごしやすい。ただ、天気が変わりやすく、晴天で暑いと思ったら雨が降って寒くなることはしばしばあるので、常に上着を持ち歩いて気を付けなければならない。 大学周辺の様子: 寮から歩いて30分くらいのところにある中心街に出ると、スーパーやレストラン、パブなど何でもある。また、ケンブリッジは観光名所でもあるので中心街には観光客も多い。 食事: 近くにスーパーがあり、職場には食堂、宿泊していた寮にレストランもあるので食事には困らなかった。余裕があるときには中心街に行き、パブなどで伝統料理を食べた。 交通機関: 基本的には徒歩で寮・職場・中心街の間を行き来していたが、土日はバスや電車を使った。市内はバスが多く走っている。 お金: お金はほとんどの場合クレジットカードを使用した。クレジットカードの上限額を引き上げておく必要がある。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
大学都市であることもあり、治安はよい。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
東京大学負担:航空券(25万)、食費(12万6千円) ケンブリッジ負担:宿泊費 基本的に物価は日本よりも高い。スーパーや大学の食堂は安いので気にならないが、レストランや電車の運賃などはやはり高いなと思ってしまう。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
上記の通り。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
農学部で生態学を専攻しているため、イギリスの野生動物や生物多様性保全活動に興味があった。そのため、週末は郊外の自然保護地や、自然保護団体の施設に行き、野生動物を見たり保全活動について見聞きたりした。他に、ケンブリッジ大学周辺にある博物館にも行った。ロンドン観光も一日した。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
職場の方々は優しく、ともに食事をとるなどして交流してくれた。生活する上で必要な情報や週末の観光の情報についても提供してくれた。語学面でも、なるべくわかりやすいように説明してくれた。学習面においてもいろんなことを積極的に質問させてもらったが、一つ一つ丁寧に教えてくれた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
職場の食堂は毎日昼ご飯を食べるのに使った。それ以外は特に使用していない。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
ケンブリッジ大学ではキャンパス内のサステナビリティを向上させるため、エネルギーの削減だけでなく、生物多様性や持続可能な資源の調達など、様々な観点からサステナビリティをとらえていることが分かった。自分で問題を発見し、それをどうやって解決できるかを考えたのは勉強になった。最終日にはプレゼンを行い、評価してもらったのでよかった。
②参加後の予定
TSCP学生委員会での活動で、ケンブリッジで学んだことを生かし、より幅広いサステナブル活動に取り組む。農学部での自分の研究の際に、イギリスで見た生物多様性保全の考え方を生かす。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

環境問題への取り組みは、国によって意識や考え方がそれぞれ異なっている。全体的にみてヨーロッパでは特に進んでおり、日本では遅れ気味なところがある。他の国の環境問題への姿勢を見て学ぶだけでも非常に得難い経験である。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

--

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



職場の建物外観



ケンブリッジ中心街風景